

大森 正夫

神戸市内で23日まで開 月4日に近藤誠一文化庁
催中の「神戸ビエンナー 長官を招いたシンポジウ
レ2011」。エグゼク ム「きらめく日本の文化
ティブディレクターとし 力」を催した。企画した
て企画運営に携わる大森 立場から、パネラーの言
正夫・京都嵯峨芸術大 葉を通して見えてくる神
学院教授(芸術学)に寄 戸の文化力と、この芸術
稿してもらった。 祭の可能性について記し
たい。

× ×
世代を超えて楽しめる 神戸は、ビエンナーレ
総合芸術祭「神戸ビエン 形式(隔年開催)での「神
ナーレ2011」が、ハ 戸須磨離宮公園現代彫刻
ーパースランド、ポータ 展」や具体美術協会の活
イランドしおさい公園、 動など、日本アート界を
JR元町〜神戸駅の高架 リードした歴史を持つ。



おおもり・まさお 1957年
生まれ。京大大学院工学研
究科博士後期課程修了。著書
に「京都の空間遺産」「港で
出会う芸術祭〜神戸ビエン
ナーレ2009」など。

新領域アート、活発に発信

昨年度、「文化庁長官表
彰(文化芸術創造都市部
門)」と「グッドデザイン
賞(社会領域)」を授
与されたことを受け、10

各地で芸術祭が盛んに開
うした歴史がある。

「美術手帖」 神戸ビエンナーレのプ
ログラムは特殊だ。国内
外が対象の公募によって

最先端の新領域アートを
発掘したり、市民の芸術
活動や都市環境などを誇
るべきアートとして活用
あるからだ。

したりするなど、現代ア
ートに特化せず、ジャン
ズ日本のポピュラーカル

ニメやゲームにとどまら
ず日本のポピュラーカル
チャイ全般の人氣が広が
る。神戸は、その大衆文
化を常に牽引して来た。

シンポジウムで近藤長
官は日本文化の世界性を
語ったが、神戸ビエンナ
ーレでは公募展にITメ

ダイアの応募作品が増
え、植物を素材とした「グ
海外に紹介できる日本

リーンアート」や周辺環
境を生かした「しつらい
アート」など、日本の文
化力が発揮できる新領域
アートを次々と打ち出し
ている。神戸ビエンナー
レ特別アドバイザーの池
田政治・東京芸術大美術
学部長は「なぜ神戸でこ
れほど活発に新領域の発
表ができるのかと驚き、
中谷日出・NHK解説主
幹は「世界をリードする
る先進のコンテンツの紹
介でもある。」「KOBEL」
が今こそ、世界へ発信す
る時であろう。



「グリーンアート」部門で審査員特別賞を受けた「前兆」。熟練の造園技術と映像メディアが融合した体験型の作品だ=ハーパースランド